

令和7年度 県立土浦第一高等学校附属中学校自己評価表

目指す学校像	項目	詳細		
	生徒	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のことを理解し、人格形成を図り、自主的に多方面の知識と体験に触れ、物事について構造的に考え表現できるような成長を目指す。 ・自己肯定感を持って主体的に行動し、思いやりを持って協働し、多様性を認めた国際的視野を養うことを目指す。 ・自らの将来像を明確に意識し、より高い進路実現を目指す。 		
	教員	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら仕事の効率化を図り、心の余裕を持って業務内容の改善を行うことで、WLBの向上を目指す。 ・常にリスキングを行うことで、自身の成長から自己肯定感を強めて、得られた知識を同僚及び生徒に還元し、全ての生徒の進路希望が実現することを目指す。 		
	学校	<ul style="list-style-type: none"> ・全人的な成長を実現する中高6か年新進路指導計画によって、国内外から注目を集める日本一の学校を目指す。 ・整理整頓が行き届き、生徒が積極的に学べる場所、楽しく、安心して、やるべきことに集中できる場所を目指す。 ・プロセス、ガバナンス、コンプライアンス、危機管理、いじめ対応などについて徹底的な管理を目指す。 ・保護者、同窓生、地域、国内外の教育機関などとの連携を強化し、より良い教育基盤の構築を目指す。 		
昨年度の成果と課題		重点項目	重点目標	達成状況
<p>高度で難易度の高い学習内容に対応すべく、主体的な学習スタイルを目指し、深い理解につなげている。OBOGを活用した進路指導など、生徒自身の将来の希望を実現すべき様々な取組を実施している。その結果、多くの大学合格などの成果を挙げ、生徒の進路実現をかなえている。</p> <p>一方、自信をなくしてしまう生徒もおり、ICT等の活用を含め、学習のサポート体制の充実が必要である。</p> <p>また、働き方改革の取り組みとして、授業改善、考査や採点の在り方の工夫、外部指導者の</p>		主に生徒に関すること	<ol style="list-style-type: none"> ① 基礎学力と応用力の向上：各教科の基礎知識を自主的にしっかりと身につけると同時に、論理的思考力・想像力・分析力・判断力・表現力・課題解決力といった応用的な力も高め、大学受験や将来の進路選択に備える。 ② 自主的・協働的な学びの実践：授業内外で自ら課題を見つけ、調べ、考察し、発表する探究型学習を積極的に行い、グループワークやディスカッションなどを通して協働的な姿勢を養う。また、部活動や文化祭・体育祭といった学校行事に取り組むことで、仲間との絆を深め、責任感やリーダーシップを育てる。各教育活動においてしっかりした目標管理とスケジュール管理を行うことで充実度や満足度を高める。 ③ グローバルな視野の獲得：修学旅行や留学、異文化交流、英語でのコミュニケーションの機会を活かし、国際社会での活躍と地元への貢献のための広い視野を養い、多文化理解を深める。国内外の様々な大会（模擬国連、ビジネスコンテスト、プログラミングコンテスト、数学オリンピック、科学の甲子園等）に積極的に参加し、チャレンジ精神やグローバルな視野の育成を図る。 ④ 人格の形成と社会性の育成：礼儀、思いやり、ルール遵守、自律的な行動、ストレスマネジメントやタイムマネジメントなど、人としての基本的な態度を身につけ、将来の社会生活に必要な人間力を高める。また、いじめを許さない心や、他者を思いやる心を育成するとともに、豊かな人間関係づくりを支援する。 ⑤ 進路実現に向けた主体的な準備：上記全てを網羅しつつ、自己分析と自己理解を通じて自分の興味・関心を深めながら、職業体験や進路ガイダンス、キャリアパスポートの活用、探究活動などを通して、自らの将来像を描き、進路実現に向けた目標を設定して努力する。 	A

導入など新しい取り組みも必要とされている。	主に教職員に関すること	<p>⑥ 主体的・対話的で深い学びの実現：生徒の主体性を引き出す授業を設計・実践し、アクティブラーニングや協働学習を積極的に取り入れて、思考力・判断力・表現力を育成する。深い学びの場を提供することで、生徒による授業満足度3.5以上を目指す。</p> <p>⑦ 生徒理解と教育的支援の深化：生徒一人ひとりの個性・発達段階・家庭環境等を的確に理解し、学習面・生活面・進路面でのきめ細やかな支援を行うとともに、関係機関との連携も図る。キャリアパスポートの活用によるキャリア教育、進路支援を通して進路実現を支援する。</p> <p>⑧ 継続的な授業改善と研鑽の推進：「導入～授業～確認」を基本とした授業の流れを確立する。授業評価や研究授業、同僚との協働による授業研究などを通して、自らの授業力を絶えず見直し、向上させる姿勢を持つ。</p> <p>⑨ ICTを活用した教育の充実：ICT機器やデジタル教材を効果的に活用し、学習の個別最適化や協働的な学びを実現するとともに、生徒の情報活用能力の育成に努める。自らや職場のICTリテラシーを高め、作業効率の向上に努める。</p> <p>⑩ セルフマネジメントとコンプライアンスの確保：健康管理、身だしなみの管理、リスクリング、時間管理やWLBの向上に努め、教職員として持続的にパフォーマンスを発揮できるよう心身のバランスを保つ。教育者としての職責と公共性を自覚し、法令遵守・個人情報保護・ハラスメント防止などに留意した誠実な行動を実践する。</p>			A
	主に学校に関すること	<p>⑪ 学校ビジョンの明確化と共有：学校の方向性を明示し、生徒ファーストの精神を持って、生徒・教職員・保護者が一体となって目標に向かう風土をつくる。6か年（全日制中高）進路支援計画を構築し、オールラウンド教育、リーダーシップ育成を目指す。</p> <p>⑫ 生徒の多様な学びを支える教育環境の整備：明るくて清潔な教室、ICT機器や施設・設備の充実、安心・安全な学習環境づくりを進め、生徒一人ひとりが主体的に学びに向かえる空間を整備する。また、インクルーシブ教育や心のケアにも配慮した支援体制を構築する。</p> <p>⑬ 教育活動の質的向上と学力・人間力の育成：授業改善、探究活動、国際理解教育、部活動などを通じて、生徒の学力・思考力・表現力だけでなく、主体性や協働性、豊かな人間性を育成する教育活動の充実を図る。</p> <p>⑭ 教職員の専門性向上と働きやすい職場づくり：教職員一人ひとりの資質・能力の向上を支援する体制を整えるとともに、業務の効率化・分担による働き方改革を推進し、教職員が安心して教育活動に取り組める環境をつくる。学校全体として法令順守に努める。</p> <p>⑮ 地域との連携・情報発信による信頼と共創の学校づくり：保護者・地域・企業・大学などとの連携・協働を深め、地域に開かれた学校としての役割を果たす。また、教育活動や成果について積極的に情報発信し、学校への理解と信頼を高める。</p>			A
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
教務部	基礎学力の定着を重視し、より深く考える力が育つ授業を展開するための授業改善に取り組む。	日々の時間割を円滑に運営し、生徒がよい準備のもとで計画的かつ効果的な学習に取り組めるよう、常に質の高い授業を展開する。	①	A	来年度いよいよ内進生が初めて高校3年生となる。各分野での達成状況は経過観察を続けるところではあるが、高校との接続部分について一層の検討を進める。また、仕事が多様化して
		学校行事等を効果的・計画的に実施することで、生徒が意欲的・協働的に授業に取り組む環境を整える。	②	A	
		定期考査や実力考査の問題検討会の実施を推進する。	⑤	A	
	教科にとらわれない相互授業参観を推進し、授業改善、指導力向上の研修機会を増やす。	⑧	A		
学習指導要領のねらいを踏	新しい教育課程を踏まえ、生徒の能動的な学習活動の促進に向け、研究を進める。	⑥	A	A	

	まえ、教育課程を工夫する。	学習指導要領のねらいを踏まえた評価の在り方を検討する。	⑪	A	A	いるので、発足時の教員が入れ替わっても持続可能な教育プログラムやシステムを今後も構築し続け、全職員が共有していけるよう記録と引き継ぎを行い、再検討と再構築を繰り返してよりよい学校となるようにしていきたい。
		高校における医学コースや探究学習の推進を踏まえて教育課程を運用する。	③	A		
	広報活動を充実させ、教育活動の活性化を図る。	小学生や地域社会に対して本校の魅力を積極的にPRする広報活動を推進する。	⑮	A		
		本校の教育活動の様子を、ホームページなどを通して積極的に公開する。	⑮	A		
	学校の実態を踏まえた人権教育の推進を図る。	人権感覚や人権意識を育み、人権擁護の意識を高める人権教育の実践を支援する。	⑬	A		
		道徳の時間を中心に、教育活動全体を通して人権尊重の精神を養い、生徒に人権感覚や人権意識を育成する。	④	A		
HR活動、生徒会活動、生徒が企画・運営する学校行事等における民主的な活動を支援する。		⑤ ⑬	A A			
渉外部	学校、家庭、地域社会との連携と協力体制の確立に努める。	学年後援会の活性化と、連携・協力体制の充実に努める。	⑮	A	A	各関係機関と連絡、調整を密にすることができた。地域密着という視点では、かつてのような親密性が薄くはなっているが、現状でも問題ないと思う。
		学年後援会及びPTA行事への積極的な協力・参加を呼びかける。	⑮	A		
	PTA総会出席者数の増加を目指す。	⑮	A			
	就学支援制度の積極的周知	各市町村による就学支援制度の窓口として情報提供に努め、保護者が有効活用できるようにする。	⑮	A	A	
生徒支援部	基本的な生活習慣を確立し、節度ある生活をしようとする態度を育成する。 生徒の実態を丁寧に把握し、学校生活上の問題の早期発見・早期解決に努める。	挨拶の励行、制服の着こなし、校則の在り方等を学校全体で考え、規範意識の高揚に努める。	④	A	A	学校生活アンケート、個人面談などを通して、小さなトラブルも早期発見、早期解決ができた。今後も、日頃のコミュニケーションを多くとり、生徒との関係を作り、早めの指導を心掛ける。
		交通事故防止を目指し、交通ルールの遵守を徹底する。	④	A		
		移動教室時の施錠や貴重品袋の活用等、自己管理能力を育成する。	④	A		
		スマートフォンやインターネット等の適切な利用法を指導する。	④	A		
		職員・保護者・PTAが連携して、登下校時の見守り運動、校内での生活指導等を行う。	⑮	A		
	学年・部活動・委員会・他の分掌との連携を密にし、生徒の実態把握に努める。	⑦	A			
	基本的な生活習慣を確立し、節度ある生活をしようとする態度を育成する。	アンケート調査・面談等を実施し、いじめをはじめとする学校生活上の問題を早期に発見、解決すべく全職員が一丸となって協力して取り組む。	②	A		
挨拶の励行、制服の着こなし、校則の在り方等を学校全体で考え、規範意識の高揚に努める。		④	A			
教育相談室	教育相談体制を確立する	教育相談室の広報に努めるとともに、生徒や保護者が相談しやすい環境や体制を整える。	②	A	A	面談期間に紙面での広報ができた。担任だけではなく、教科や校務分掌と連携し、よりよい対応を模索する。
		学年や各校務分掌と連携し、学校への不適応生徒の未然防止に努める。	②	A		

保健厚生部	安全で衛生的な生活環境を整備する。	清掃計画を作成し、生活環境が衛生的に保たれるよう分担区の清掃を責任をもって実施する。	⑫	A	B	校内環境については、今年度末から行われる長寿命化工事と合わせて、より清潔な環境になるように改善していく。 学習の支援が必要な生徒を把握し、専門機関との連携をはかり、よりよい個別指導ができるようにする。
		校内の環境を安全・清潔に保つために定期的に安全点検を行い安心して生活できる環境を整える。	⑫	B		
		火災や地震などの災害を想定した避難訓練を実施し、保護者・地域と連携した危機管理能力向上に努める。	⑮	B		
	生徒の健康管理を支援する。	検診結果に応じて生活指導を行うなど、自己管理能力が高まる指導に努める。	⑫	A	A	
		自他の生命尊重を基盤とした健全な倫理観を育み、将来の実りある自己実現に向け、性に関する保健指導を実施する。	⑫	A		
	学習指導を支援する。	効果的な個別指導を行うため、学年と共同で生徒の家庭学習実態を把握し担任を支援する。	⑦	B	B	
進路指導部	生徒が志高く、自らの進路希望を実現できるようにする。	生徒の進路希望に即した授業や考査のレベルを維持するため、教科担当者が先進的な取り組みをする学校に訪問できるよう支援する。	⑧	A	A	中高6年の進路指導計画を見据えた計画を策定し、これまで以上に高校との連携・交流を深めていく。 生徒の自己理解を深め、進学意識や職業観について考える機会を設けるなど、総合的な学習の時間の計画を見直していきたい。 また、来年度は、附属中1期生が高校3年に、高校3学年に内進生が在籍することから今年度同様に追跡調査を行い、卒業後の進路についても分析をし、教科指導・進路指導に役立てることができるようしていきたい。
		キャリアパスポートを積極的に活用し、将来の生き方や生活、進路や職業について考える学年行事の支援を行う。	⑤	A		
		考査や外部模試の分析・情報交換会を開き、課題の発見とその解決に努め、教職員集団として共通理解をもった進路指導ができるようにするため、学年との連携を密にする。	⑧	A		
		学年後援会総会、保護者面談の際に、学年に応じた適切な進路情報を提供する。	⑮	A		
		生徒の考査・模試の計画や振り返りを促進できるような場面の設定や教材の開発をする。	②	A		
		必要に応じて外部からの資料を配付するなど、生徒と保護者が進路について共通の認識をもてるように支援する。	⑮	B		

図書視聴覚部	授業の展開に対応した資料を充実させる。	各教科を対象に随時購入希望図書を調査し、蔵書の充実を図る。	④	B	A	司書・国語科教員を中心に蔵書の充実を図ることができ、高校生が中心ではあるが、哲学カフェ等のイベントも通して、中学生にも読書習慣の意義を考慮してもらうことができた。次年度以降は、教科横断的な視点で図書を選定し、ジャンルを問わず読書に親しめる環境づくりをしていく。
		蔵書の効率的利用のため、コンピュータによる蔵書管理のあり方を見直す。	⑧	A		
	読書・作品鑑賞等を通して教養を深め、豊かな人間性を養う。	生徒の教養や人間性を高めるにふさわしい資料を精選し、継続的に収集していく。	④	A		
		生徒の読書意欲を喚起するための情報発信や図書の配置の工夫を行う。	④	A		
		生徒の読書生活を高めるためのイベント等を工夫する。	④	A		
	授業及び自主学習の場として、利便性・快適性を高める。	図書館・視聴覚室の美化に努め、利用マナーの遵守について指導する。	②	A		
課外授業及び視聴覚教材を用いた授業の場として視聴覚室を開放する。		②	B			
生徒の自主学習を支援する場として、弾力的に図書館を開館する。		②	A			
ICT活用推進室	情報教育の環境を整備し、授業でのICT機器の活用を進める。	事務室・教科・学年と連携し、PC環境の整備に取り組む。また、授業でのICT活用を推進し、生成AIやICT機器活用の事例などの紹介に努め、情報セキュリティやウイルス対策等に対する意識を高める。突発的に起きるトラブル等に対しても対応できるような用意しておく。	② ⑨	A	A	年度当初に生徒支援部と連携した情報モラル教育を展開し、Chrome Bookの取り扱い方について周知徹底し、共通理解を深めた。 ICT支援員の協力のもと、ICT機器の適切な整備・管理・運用ができるような体制を構築した。
		授業等で情報モラル教育を推進するための資料の提供を行う。現在の情報技術を取り巻く社会環境についての具体的事例やその対処法等について指導する。	④	B	B	クラスルーム等で、資料・情報提供を適宜行った。今後、スマートフォンや各種アプリケーションなどの取り扱いについて、生徒支援部と相談しながら、ルールの整備を行う必要がある。
探究活動推進室	課題探究活動を推進する。	課題探究活動を行うにあたり、附属中入門セミナー、県内外フィールドワーク、プレ課外探究等を通じて、生徒の興味・探究心を喚起し自ら考えさせる態度を育成する。	②	A	B	3年間を見通した上での今年度1年間の継続的な研究・調査活動を行うことが
	人的ネットワークの構築を推進する。	県内中高一貫校との交流、プレ海外探究、海外フィールドワーク等を通じて、世界に目を向け、将来活躍するために必要なネットワークを主体的に構築する態度を育成する。	③	A		

	幅広い視野を養う活動を推進する。	英語スキルアップセミナー、企業・省庁訪問、OBOG講演会、進路講演会等を通じ、自らの課題発見とその解決を支援し、幅広い視野をもった生徒を育成する。	⑤	A	できた。新たな取り組みとして、中1における探究活動 kickoff ミーティングは、よい活動となった。 課題として、現在中止予定となっているものの、生徒・保護者から実施希望の多い海外研修をどのような形で実施するかが挙げられる。
	グローバル人材の育成を推進する。	学校行事や各種委員会活動等を通じ、自己を確立しつつ、他者を受容し、多様な価値観をもつ人々と共に思考し、協力・協働しながら課題を解決し、新たな価値を生み出しながら、グローバル社会に貢献することができる生徒を育成する。	③	B	
国語科	すべての生徒に学ぶ楽しさを味わわせ、学習意欲を高め、学力を向上させる。	60分授業のメリットを生かし、学習内容を生徒相互で振り返る時間を設定することにより、思考力・判断力・表現力の一層の強化を図る。	②	A	A 60分授業の中で、協働的な学びを実現する言語活動や学習ごとの振り返りの時間を十分に設定できた。 英語を使った表現のタイミングを国語の中では実施できなかったため、来年度どのように組み込むか検討が必要。
		協働的な学びを実現する授業を実践し、認め励まし伸ばす指導の工夫・改善を通して、誰一人取り残さない指導を目指す。	③	A	
		すべての教科において、自分の考えを英語で表現する活動などを取り入れ、年間を通して英語で発信する力を育てる。	③	B	
		個に応じた学習方法等を助言するとともに、定期的に個人面談を実施し、すべての生徒に家庭学習の習慣を身に付ける。	④	B	
社会科	社会的事象の地理的・歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追求したり解決したりする活動を通して授業改善を図るとともに、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を育成する。	地理に関する知識と、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を効果的に調べてまとめる技能を身に付ける。また、それらを位置や分布、場所、人と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して思考力・判断力・表現力を養う。	②	A	A 高校段階を見据えた授業と、実社会に繋がる生徒の資質・能力の育成に重点を置いた授業を、並行して行うことができた。 課題として、「考査や模試における学力」の差は依然として大きいため、単元ごとの小テストや振り返りを、引き続き実施していくことが挙げられる。
		我が国の歴史の大きな流れを、各時代の特色を踏まえて理解し、それらの時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代とのつながりなどに着目して、思考力・判断力・表現力を養う。	②	A	
		人権について広い視野から認識し、政治や経済、現代社会、国際社会などについて理解し、社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり、表現したりする力を養う。	②	A	
		現代の社会的事象について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に関わろうとする態度を養う。	④	A	

数学科	生徒の発達段階に応じた質の高い授業を展開するとともに、さらなる授業改善を図る。	授業計画表を作成するとともに、高校・附属中の教員による相互授業参観、TT活用に より、スムーズな中高連携を図る。	②	A	A	高校の先生方に附属中授業に入ることで、生徒理解が進むなど、教科としての連携がよく取れている。 この連携を基にして、6年間を見通したカリキュラム、指導内容の改善を図っていくことでより有効な数学教育を生徒達に提供したい。
		授業重視を徹底するとともに、日常の自己学習も徹底させる。	②	A		
		授業中心の学習計画を立て、「予習→授業→復習」の学習習慣を確立させる。	②	A		
		授業担当者間の連携を密にし、授業の進度や定着度合いの確認・分析を行い、学習指導に生かす。	③	A		
		基本事項の理解を徹底するとともに、試験前等の問題演習を十分に行う。	②	A		
		授業内容や生徒の習熟度に応じた教材・問題等を協議検討して、その結果を学習指導に生かす。	③	A		
理科	自然に対する関心や探究心を高めるための授業改善を図るとともに、科学的に探究する能力と態度を育てる。	授業展開の中で、生徒の興味・探究心を喚起する実験・観察教材の研究と工夫に努め、 発展的な内容や話題について提供する。	②	A	A	今年度も、十分に目標を達成することができた。次年度も継続・深化させたい。 校舎改修工事が行われるため、一部の実験・観察が予定通り行えない可能性がある。 授業展開を工夫しながら進めていきたい。また、カリマネを行い、中高接続のための授業を増やしたい。
		単元毎の観察・実験を行い、観察・実験に積極的に取り組み、現象を見る目や探究心を 養う。また、その内容についてのレポートの作成や発表を通して、学力の定着を図ると ともに科学的な思考力や表現力を養う。 外部講師による「科学実験講座」等を実施し、発展的な内容に触れさせることで科学的探 究心を育てる。	③	A		
	自然の事物・現象について の理解を深め、科学的な自然 観を育成する。	授業で履修する事柄が自然や生活の中の仕組みにどのように関わっているかを取り上げ ることにより、科学を学ぶ楽しみや科学的な姿勢を育成し、科学的現象に対する学習意欲 を高める。	②	A	A	
保健体育科	運動や学習を通して、協調性を高め、仲間との関わりの中でそれぞれの力を伸ばす意識をもたせるように指導する。	集団種目を多く取り入れることにより、仲間と協力・連携して活動する態度や、役割を 積極的に引き受け自己の責任を果たそうとする態度を育成する。	④	A	A	運動意欲は高い生徒が多いが、基礎体力が低い。運動の楽しさを実感させ、自ら体を動かす態度を育てたい。また、グループ活動を通して、自らの役割を果たし、生徒自らが運営できる行事、大会を増やしていきたい。
		集団の特性に応じた、ゲームの工夫や技能を高める実践的能力や態度を育成する。	④	A		
		準備や片付けを率先して行う態度を養い、集団や社会に寄与する精神を育てる。	④	A		
		保健において、自分の身体への理解を深めて命の大切さに気づき、自己愛や他者への思いやりの心が育つように指導する。	④	A		
		保健において、グループ研究・発表を実施し、共同で学習する事によって仲間意識や責任感をもたせるよう指導する。	④	A		
	運動の実践と授業改善を通して、体力の向上、困難なことにも立ち向かう態度や能力	克服的な種目（水泳・長距離走）を実施することで、チャレンジ精神を養い、体力の向上や達成感を味わわせる。 苦手なことにも取り組みやすいように、工夫した指導や声かけを行い、学びに向かう姿	②	A	A	
		苦手なことにも取り組みやすいように、工夫した指導や声かけを行い、学びに向かう姿	②	A		

	を育成する。	勢を重視する。 個人スキル向上のために、ドリルや発問の仕方を工夫し、発展したゲームが展開できる力を育成する指導を行う。	②	A		
	体育的行事を推進し、主体性や計画・実践する能力を高め、人間性を涵養する指導を行う。	体力テストを通して自己の体力を客観的に評価し、日頃から健康への意識を高め、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育成する。 一高オリンピックを生徒が主体的・計画的に行えるよう支援し、望ましい人間関係の形成や集団への所属意識や連帯感を深め、よりよい学校生活や社会生活を築こうとする自主的・実践的な態度を育てる。	② ①	A A	A	
	運動・スポーツ活動における健康・安全指導を充実させる。	運動部員が、学級や学校行事でもリーダーシップを発揮できるよう、指導育成する。 活動中の健康観察を徹底し、気付いたことを積極的に伝えるようにする。 健康、安全に関する自己管理能力を育成する。	④ ④ ②	A A A	A	
音楽科	多様な表現活動を通して音楽における表現・鑑賞の楽しさを味わうことができる授業を展開し、生涯に渡って芸術を愛好する豊かな心情を育てる。	一人一人の個性や感性に沿った個別指導を充実させ、音楽に親しむ心情を培う。 学習指導要領に沿って、中高一貫における生徒の発達段階を考慮した教材や授業内容及び指導方法を創意工夫し、授業の改善を目指す。 生徒自らが工夫した表現活動や相互鑑賞などにより豊かな心情を育て、音楽の諸能力の向上を図る。 相互鑑賞等とおして、他者の考えや表現に共感する鑑賞の能力を高めるとともに、自己表現の意図を他者に分かりやすく伝える発表の能力を向上させる。	⑦ ⑧ ⑥ ②	A A B A	A	学年によって、互いの演奏を聴きあう時間を十分に確保できない場面があった。次年度は余裕を持った授業計画を心がけたい。
美術科	多様な表現活動を通して美術における表現・鑑賞の楽しさを味わうことができる授業を展開し、生涯に渡って芸術を愛好する豊かな心情を育てる。	一人一人の個性や感性に沿った個別指導を充実させ、美術に親しむ心情を培う。 学習指導要領に沿って、中高一貫における生徒の発達段階を考慮した教材や授業内容及び指導方法を創意工夫し、授業の改善を目指す。 相互鑑賞等とおして、他者の考えや表現に共感する鑑賞の能力を高めるとともに、自己表現の意図を他者に分かりやすく伝える発表の能力を向上させる。	② ③ ③	A A B	A	個性や感性に沿った表現活動を進めることができた。相互鑑賞や言語活動の時間も充実させていきたい。
技術・家庭科	生活や技術に関する実践的・体験的な活動を通して、よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力を育成する。	実験や実習、観察や調査などの実践的・体験的な学習活動を計画的に実施する。 生活を主体的に営むために必要な基礎的・基本的な知識や技能を問う課題や試験を計画的に実施し、学習内容の理解度や技能の習熟度を継続的に記録・評価する。 生徒が主体的・対話的に学習する場면을効果的に設定する。	① ② ⑥	A A A	A	主体的・対話的な学習場面において、生徒の思考を深める問いや展開を工夫し、活動の質をさらに深化させる。
総合的な学習	課題設定や課題解決のための思考力を養う。	ルーブリックなどを活用し、思考・判断・表現のプロセスや成果物を多面的に評価する。	⑦	B	B	今年度は、附属中・高校の

別紙様式 2 (中)

の時間	人的ネットワークを構築する力を養う。	生徒が家族や地域社会の方々と協働し、家庭や地域をより良くするための活動を主体的に計画・実践できるような環境を整える。	⑮	A	人的ネットワークを活用して、進路講演会や OBOG 講演会をはじめ、非常によい行事となったため、継続して行っていきたい。 課題として、各種行事において、高校主体で行うことが多いため、中学生の活躍の場や自己研鑽の場を増やしていきたい。	
	英語力と ICT 技術を養う。	グループワークや協働学習を通して、互いの意見や価値観を尊重し、合意形成を図りながら課題解決に取り組む場面を効果的に設定する。	④	A		
		一人 I 台端末を活用した課題研究と各種発表会を通して、情報の伝達力を育成する。	⑧	A		
	幅広い視野を養う。	文化講演会、進路講演会等を通じ、自らの課題発見とその解決を支援し、幅広い視野をもった生徒を育成する。	⑤	A		
コミュニケーション能力を養う。	学校行事や各種委員会活動等を通じ、自己を確立しつつ、他者を受容し、多様な価値観をもつ人々と共に思考し、協力・協働しながら課題を解決し、新たな価値を生み出しながらグローバル社会に貢献することができる生徒を育成する。	②	B			
英語科	分かりやすい授業を展開できるように授業を改善し、実践的コミュニケーション能力を養う。	教材研究を深めて、生徒の知的好奇心を刺激し、充実感のある分かりやすい授業を展開する。	③	A	A	来年度は、ICT を活用した授業改善を進めるとともに、アクティブ・ラーニングや言語活動を通して、実践的なコミュニケーション能力の育成を図る。あわせて、フォニックス指導や語彙・文法の定着を重視し、基礎的な英語力の向上と生徒の主体的な学習態度の育成に取り組む。
		英語を通し、将来国際社会で活躍する日本人として必要となる、国内外の文化・社会の諸側面についての理解を深められるように題材の扱い方を工夫する。	①	A		
		読む、聞く、書く、話すの 4 技能をバランスよく伸長できるような授業を展開する。	④	A		
	積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、英語の確かな基礎力を養う。	授業を中心に予習復習の徹底を図り、自立した学習の援助をする。	②	A	A	
		表現力を向上させるパフォーマンステストを、年間を通して実施する。	③	A		
		英語に親しめるサイドリーダーを選択・活用して、読解力の基礎の育成を図る。	③	A		
		スピーチしたり、スピーチの内容についてやり取りをするなど、学んだ英語を活用する授業を展開する。	③	A		
		授業内にペアワークを積極的に取り入れ、実践的コミュニケーション能力の向上を図る。	④	A		

※ 評価規準：A：目標が十分達成された B：ある程度の成果が見られた C：取り組んだ D：取り組んだが課題を残した E：取り組まなかった